

# 刻む会

# たより

NO. 72

2019年3月29日

長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会

共同代表

井上洋子・木村道江

事務局

宇部市常盤町一―一九(宇部緑橋教会内)

TEL 0836(21)8003

カンパ振込先

ゆうちょ銀行 □座番号 01590・7・32405

名義 長生炭鉱の「水非常」を歴史に刻む会

年会費

《正会員》個人3,000円 団体5,000円  
《賛助会員》個人1,000円 団体2,000円

ホームページ <http://www.chouseitankou.com>

メール [chouseitankou@gmail.com](mailto:chouseitankou@gmail.com) ※メールアドレスが変わりました!

2月16日(土)長生炭鉱水没事故77周年追悼集会を開催。2名の初参加者を含めて15名の韓国遺族が来日しました。第一部 追悼式には約130名、第二部 講演会には約70名が来場して下さいました。ご来場並びにご支援下さった皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。

## 追悼集会開会挨拶

共同代表 井上 洋子

皆さまこんにちは。本日はお寒い中、長生炭鉱水没事故77周年追悼式に、多くの皆さまのご参列をいただき、「刻む会」を代表して心より御礼とご挨拶を申し上げます。

昨年は遺骨発掘と返還に向けた「政府との交渉」という大きな一歩を踏み出すことができました。たとえば、海の底に放置されたままの遺骨であろうとも、政府も交渉の場に出ざるを得ず、2月に引き続き、12月の第2回交渉では韓国遺族会の遺骨収集に向けた要請書を正式に日本政府に提出致しました。まずは、政府の現地調査の実現に全力をあげて参ります。

また、ご承知のように昨年は朝鮮半島をめぐって、かつてない歴史的な情勢を迎えました。「平和と繁栄、統一への道へ」と、南北両政府の民族和解に向けた動きから目が離せません。徴用工遺骨問題の朝・韓・日の市民運動レベルにおいても、国際的な連携の動きが加速し、12月にはソウルで国際シンポジウムも開かれて、長生炭鉱についても報告を致しました。

本日は、韓国政府の財団であります「東北アジア歴史財団韓日歴史問題研究所」所長の南相九様にもご臨席頂いており、午後から講演をいただく予定です。

長生炭鉱の遺骨発掘と返還を実現するためには、技術的困難さや多額の経費等を理由とした逃げは、政府はもちろん、私たち運動をする側も払拭しなければなりません。

そのためには、私は専門的で技術的な研究機関が必要であると考えています。海底炭鉱に詳しい方等、専門の方々にご協力いただいで、発掘に向けた具体的な方策を探っていかねばなりません。

もの言わぬ遺骨の力は偉大です。発掘しふるさとお返しするその困難な過程は、一歩進むごとに朝鮮半島の皆様方の恨(ハン)を解き、必ず友好と平和をもたらししてくれる事と確信しています。

今こそ、「遺骨問題に関わる人々のすべての力を、すべての関心を、長生のご遺骨に」を一言葉に、共に前進していきましょう。

最後に、皆様のご支援があつての運動です。どうぞ今後ともなお一層のお力をお貸し下さるよう心からお願い申し上げます。挨拶と致します。ありがとうございました。



# 第一部 追悼式

2019年2月16日(土)午前11時~12時

追悼ひろばにて開催

前日、遺族が載る予定の関釜フェリーが出航できなくなり、急遽博多港へ向けての船に乗り換えたため、開始時間ギリギリに遺族が到着するというハプニングがありました。予定通り開催することができました。



来賓挨拶

韓国・観音宗 総務院長 泓波  
代読：総務院長支所室長  
イ・ホンギョン氏



来賓挨拶

駐広島大韓民国総領事  
金宣杓(キム・ソンピョ)氏



遺族代表挨拶

韓国遺族会会長  
金亨洙(キム・ヒョンス)氏



遺族を代表して発言

尹玉基(ユン・オッキ)さん

## 式次第

- 開会・主催者挨拶
- 韓国遺族会会長挨拶  
(来日遺族 15名)
- 来賓紹介
- 駐広島総領事挨拶
- 韓国・観音宗挨拶
- 遺族からのメッセージ
- チェサ・献花
- 閉会

私が生まれて6か月の時に、お父さんが亡くなりました。お父さんがどこで亡くなったか分からず、ずっと探していましたが、この長生炭鉱で亡くなったことが分かり、それからは毎年追悼集会に参加しています。ずっとお父さんを殺した日本を恨みに思ってきましたが、このように慰霊している市民団体があることを知って、心がやすまりました。お父さんが亡くなって、大変な人生を歩む中で、私は仏教の道を歩むことになり、今、小さなお寺で日々精進しております。みなさま、遺骨がまだ海の中にあっても、皆様のお力で早く韓国の地に戻りますように、ご協力くださいますよう、切にお願いいたします。

## 【第一部】講演会（法泉寺にて）

朝鮮人強制動員被害者の遺骨問題の  
現況と課題

ナム・サンゲ（東北アジア歴史財団）

去年10月30日大法院の判決が出た。その後日韓関係が非常に冷え込んでいるが、こうなると、マスコミは韓国の血には反日の血が流れているような報道をするが、韓国人の血に半日の血はない。現在、民間レベルでは活発に交流している。去年10月30日の判決が出てから、日本政府は「65年の条約で全て終っている」というが、すべてが終わったわけではない。サハリン、原爆被害、慰安婦の問題は終わっていない。すべてが終わっていないという立場から始めるべき。



10月30日の大法院判決が出てから、日本政府は「徴用工ではない」とトリックを言った。裁判の原告は1944年以前に日本に連れてこられたが、「徴用令」は1944年以前から適用されたわけではないので、「徴用」と呼ぶと日本政府に責任があるように思われるため、「朝鮮半島出身労働者」と名前を変えた。しかし、1938年に国家総動員法ができる。企業が勝手に連れてくることはできない。国家総動員法で動員された人は日本政府が責任を持つべき。

日本政府が連れてきた人が事故で亡くなった場合には、日本政府の責任で元に戻す責任がある。日本人（現在も日本人である人）については、20

16年3月23日「戦没者の遺骨収集の推進に関する法律」を制定し、遺骨を家族の元へ還そうとしている。朝鮮人からは国を奪い、日本人にしたが、戦争が終わったので日本人ではないと、恩給法や援護法から外した。遺骨収集も同じ。

遺骨については人道的問題。国家間でもまだ合意に至っていない。2004年12月盧武鉉大統領と小泉首相とが合意し、日本政府として一応責任を果たしたところもあるが、未だに解決されていないのが現実。

これは、人道的な問題であると同時に歴史的（植民地支配が終わっていない問題である。植民地支配は45年に終わり、創氏改名がなくなって元の名前に戻るなど解決したものもあるが、遺骨はまだ還っていない。

第一には遺骨を遺族に還すこと。そのために何故亡くなったのか、何故今まで遺骨を還せなかったのかを調査する必要がある。ただ遺骨を還せばよいというものではない。この事故は自然事故ではない。そういう観点から、「刻む会」のやっていることは非常に大切。遺族は、親族が日本に連れてこられて、事故でなくなったので、日本のことが嫌だと思う人も多かったが、「刻む会」のやっている行事に参加すると、日本がやったことは許されなと思うが、日本にもこんな人たちがいると思ひ、心が変わる。日本に対する見方が変わる。遺骨をただ還すのではなく、どのように記憶に留めるか、記録に残すかが重要。

これは韓国政府の責任でもある。遺骨を遺族に還すのは韓国の責任でもある。これまで積極的にやってきたとは言えない。

労働者の遺骨の問題だけでなく、軍人・軍属の問題もある。1945年8月から日本政府が韓国政府を通して送還した遺骨は2千柱。計算上は1万8千柱がまだ残っている。100人以上以上亡くなった地域が30箇所くらいある。

2005〜2006年強制動員真相糾明委員会に働いた。その時、宇部にも来た。日本で軍人・軍属についても調べた。東京に祐天寺というお寺があり、そこに軍人・軍属の遺骨がある。名簿があるので、調査して、遺族に連絡をしたが間違いと分かった。その遺骨は浮島丸事件（戦争が終わって朝鮮に引き上げる時舞鶴あたりで沈没した）で亡くなった人だった。乗船名簿には名前を書いたが、事情で乗り損ねた。浮島丸事件で亡くなった人で14歳以上の朝鮮人は海軍の軍属扱いをしている。2回くらい調査して、火葬したものを500何人（犠牲者の数）で分けた。その人は乗船名簿に名前が書いてあったので、亡くなった人扱いをされて、遺骨も作られた。そして海軍軍属なので、靖国神社にも合祀された。

ここで靖国の問題について一言いいたい。靖国というのは、戦争の犠牲者として祭るのではなく、日本の国益を守ったということに祭る。その中に朝鮮人も2万1千人くらい入っている。これは、朝鮮・韓国人から見ると耐えがたい。それで2001年から裁判をやっている。今3回目だが、2回は負けた。理由は宗教的寛容。朝鮮的な催事をするのに靖国に祭ってあっても差し支えないという。これも遺族には耐えがたい。この問題も植民地は終わっていないということを物語っている。

1945年から韓国政府を通して日本政府が還した遺骨は軍人・軍属の遺骨。問題なのは海外にある遺骨。日本政府が収集してきた遺骨は技術的にはDNA検査で日本人・韓国人・台湾人：で分けられるが、現実的にはできない。

日本政府が遺骨収集して情報を韓国政府がもらうよう交渉した。日本政府は遺骨を収集したら日本の千鳥ヶ淵墓苑に安置する。その過程を遺族に報告する義務が韓国政府にはある。日本の法律で遺骨を収集する対象は日本国民だけ。遺骨収集した時に韓国人であることが分かれば、その時韓国政府と交渉するという。やるからには、朝鮮人の遺骨も混ぜていることを前提に遺骨収集すべき。日本の遺族に対しては、DNA検査をしている。韓国人に対してはまだやっていない。

祐天寺の遺骨はほぼ韓国に戻り、望郷の丘に安置された。今残っているのは浮島丸事件の犠牲者遺骨と北朝鮮の遺骨。浮島丸事件の犠牲者遺族は遺骨奉還に反対している。日本政府は事件について責任を取っていない、謝罪をしていないので、遺骨だけ還ってきてはその事件が忘れられてしまつのではないかと。北朝鮮の遺骨は、米朝会談でいい方向に行つて、日本政府と国交ができれば、人道的な問題ということと解決していくと思う。そうすれば、北の骨を還し、北にある日本人の骨を日本へ還すこともできる。

No.72 刻む会たより  
日本に朝鮮人の遺骨がいったい何体残っているのか？何人動員されたかということ強制動員委員会は1,045,000人くらいと報告しているが、実際に何人亡くなったかは分からない。2004年強制動員委員会ができたとき、洪

祥進(朝鮮人強制連行真相調査団事務局長)によると「1945年2月現在で『46,000+α』で、1945年3月以降の長崎と広島での被爆犠牲者と日本各地での空襲犠牲者を含めば、強制連行の犠牲者は最低約6万人と推定されるが明確に分かっていないのが現状。

日本と韓国の間では2004年12月27日盧武鉉大統領が小泉首相に民間人で動員された遺骨を探してくれ、還してくれとお願ひした。それまで福岡や宇部で市民団体が調査した資料は韓国が日本と交渉するときの力になった。2005年5月から2010年2月までトップ庁クラスの会議が7回、実務者クラスの会議10回くらいあった。それには主に日本の仏教界の協力があつた。お寺で調べたものを元に調査した。2011年に遺骨協議の代表が強制動員委員会から韓国の外交通商部が変わる。2015年になると強制動員委員会が解散された。2012年、2013年になると日韓関係がこじれてくる。そんな中、遺骨問題が登場してくる。

韓国政府の中の行政安全部という部署があるが、その過去の史関連業務支援団で、遺骨の収集を行っている。今は主にタイをしている。シリアにも遺骨が発見されたというので、そこにも予算が付いた。そこで韓国政府が以前より活発になった。マスコミが報道して、あそこに遺骨があるとするとそこに予算を付けざるを得ないという状況。皆さんが今までやってきたことも、韓国政府が関心を持たざるを得ない。2015年4月段階で、日本政府が韓国政府に資料を渡した。それを見ると、朝鮮人の遺骨が安置されているのは33

9箇所。主にお寺。遺骨は2798体。長生炭鉱の遺骨は入っていない。その中で、個性が確認できるのが1337で、さらに身元(名前)が確認できるのは1134体。詳しいことが確認できるのは167体。政府がやっても、長年やって確認できるのは167体だというのが現実。

軍人・軍属は政府が作った名簿がある。労働者の場合は日本の政府の責任で連れてきたが、全体の名簿はない。どこでどのように亡くなったか、遺族に当然説明すべき。だが、行政はやらなかった。その名簿を靖国に渡した。靖国が朝鮮の人を合祀したいというので、日本政府に要請し、日本政府が資料を渡した。僕が過去、靖国に犠牲者がいつなくなったか聞いたら返事が返ってきた。戦争の時には日本人だとして連れてきて、戦争が終わったら日本人じゃないからいつどこで亡くなったかも知らせない。援護法からも外すということをしている。昨年の大法院の判決は、このような蓄積された問題の一つである。すべて遺族を探せるかというそれは難しい。では、どのように遺骨問題を解決していくかというところ、「刻む会」がやっているような追悼集会は非常にモデルになると思う。亡くなった地域で事実を調査し、地域の中で亡くなった方の法要をすることは、実際に遺骨を還さなくても遺骨問題の解決の方法となる。行政安全部過去の史関連業務支援団ホームページに長生炭鉱のことが載っているのは、90年代からみなさんが運動をやってきた成果。誇りに思つてよい。

これからの課題は、遺骨問題の解決のために、基本的には、日韓の政府の責任の下でこの問題を

解決することが大切。日本政府は未だに続いている植民地支配があるということを認めないといけない。日本政府は、日韓協定ですべて解決済みという立場ではなく、まだ解決していない問題もあるということを確認することが解決の第一歩。韓国政府は国民の財産・生命を守るのが国家の責務ということをおぼえ、国が何をすべきかということをおぼえ、遺骨問題に関してもっと積極的に関わることがある。すべての遺骨を探して持って帰ることはできないと思うが、遺族が国は十分にやっただと思えるくらいやらないと国は責任を果たしていない。遺族の尊厳を回復するという観点をもちながら、この問題は歴史的問題、植民地支配から発展した問題であるという二つの観点が必要である。

北朝鮮地域でも強制動員された被害者がいる。動員されたときには国を奪われているが、一つの国だった。南と北の区別はなかった。植民地が終わって二つの国に分かれた。亡くなった方も北と南に分けられた。数を調べてみると南の方が多い。20%くらいは北の人。しかし、遺骨は見た目や名前だけ見て北か南か分けられないので、一緒に解決しなければならぬ。でも亡くなった地域は日本なので、日本の協力を得ないとこれも解決しない。したがって、遺骨問題は南と北と日本が協力して解決しなければならぬ問題である。

これまで日本に残っている韓国人の遺骨を韓国に還す事例がいくつかあった。近年、金弘傑（キム・ホンゴル）さんが北に行つて、遺骨問題を通じて植民地問題を解決しようともちかけた。それにマスコミが強い関心を寄せた。それは、金弘傑

さん個人の力もあったと思う。金大中（キム・デジュン）さんの息子であるという影響が大きい。南と北と一緒にやるということでも非常に関心が集まった。2018年7月18日には北朝鮮の民族和解協議会と「朝鮮人遺骨送還のための南北共同推進委員会」が結成し、8月6日には「朝鮮人遺骨送還のための南北日共同推進委員会」が結成した。北と南と日本が力を合わせて遺骨を調査し、韓国に持って帰らましようという運動が本格的に始まった。11月26日には、「朝鮮人遺骨送還のための南北共同推進委員会」を解体し、「強制動員真相究明のための南北共同推進委員会」を結成した。遺骨の問題は、強制的に日本に無理やり連れてこられたことから始まる。まだ実際には動いていない。これからはこの協議会が中心になって活動していく。さっそく、今月末に大阪の遺骨を韓国へ還す。とりあえず、済州島という島に置いて、南北の関係が良くなったら、38度線のあたりに持って行くという計画になっている。今までと違うのは、北と南と日本と一緒にやるということ。共同でやるということ、今までより一歩進んだ。しかし、これは民間。民間だけでは限界がある。

朝鮮人遺骨問題は人道の問題であり、植民地支配に起因する歴史的問題である。この問題の解決のための南北日協力は、この地域の友好と平和づくりに役立つ。北と南と日本が協力することで、このようなモデルを作っていくことで、地域の安定、平和づくりに役立つ。そのためにも皆さんのやっていることは非常に意味があると思う。この場を借りて尊敬の念を表したい。

講演趣旨まとめ 文責 山内弘恵

追悼集会翌日、追悼ひろばを訪れた遺族たち。名板の掃除をされました。この追悼碑を大切に思って下さっているのが伝わりました。

この後、緑橋教会で2名の遺族のDNA検体採取を行い、「刻む会」との懇談会を行いました。毎年、追悼集会翌日に行っている遺族との懇談会は、お互いの意思疎通を図る大切な場になっています。



**追悼集会参加者より感想**

より多くの南の人々にも事実を知ってもらいたい

ソン ソン(韓国在住・フォトライター)

いつの日だったか広島の同胞がこのような話をしていた。「ここ広島よりもっと西方に行く」と山口県がある。その地には海底炭鉱があって、水没し海の底に犠牲者が眠っている所があるよ。その時、犠牲になった人たちの大部分が同胞だそう

話聞いたのは2015年の事だった。2年後、現地に行く機会があった。宇部市西岐波海岸に到着して、海の上にそびえ立つピーヤを見た後、帰路飛行機に乗ると2015年に聞いた話か思い起こされた。

その日、私が見たピーヤが水没した海底炭鉱の痕跡であり、その海底に今も183人の人が眠っていることは・・・。

2018年、初日の出を長生炭鉱で迎えた。日が完全に明るくなるとともに、光を浴びた人々が皆、亡くなった。しばらくたっても周辺を見渡しても、海岸は静かだった。

初めて訪れたこの地、朝鮮学校の子ども達にはこのピーヤが

何なのか?どんな歴史があったのか聞かせてあげた。その時の子ども達の感想は「ピーヤは事故の象徴として海にそびえ立ったままで、海を守っているようだ。」と話した。

歴史の足跡は消えない

そしてその日、ある人がこの海岸に残された歴史の足跡を説明してくれた。波で足跡が消えても、また必ず足跡を残す人が増える。その足跡は日本に住む人だけで無く、南に住む人々であることも願う。



追悼碑の前で献花する人々

2019年2月には多くの人々と共に長生炭鉱を訪れた。韓国から歴史探訪に来た大学生達だった。彼らに私が望んだ足跡の主人公になって欲しいと願う。長生の歴史が在日同胞の歴史としてのみ忘れ去られるのではなく、より多くの人々が共にこの地を訪れてくれたら嬉しい。

**追悼集会の新聞報道**

2/20 毎日新聞 ↓

2/20 宇部日報 →

**183人の冥福祈り献花**  
「長生炭鉱」水没事故  
宇部で遺族ら追悼集会

日経 2.20  
**130人が冥福祈る**  
長生炭鉱水没事故追悼集会

犠牲者の冥福を祈る参加者  
長生炭鉱追悼集会にて

午後からは松山町5丁目法泉寺で東北アジア歴史財団韓国歴史問題研究所の南相九所長が遺骨収集の現状や課題について講演した。(日高)

▼県迷惑行為防止条例違反の疑い、宇部署は19日、神奈川県横浜市の無職鈴木隆弘容疑者48人を

事件・事故

※なお、去る12/9に赤旗日曜版で見開き2ページの大きな記事が出ました。それを書いてくださった記者さんも取材に来られていました。追悼集会については今後記事が載る予定だそうです。

## 「ピーヤの学習会」報告

運営委員 横山 潤

1月19日(土) 10:00~12:00に、「刻む会」主催の公開学習会として、宇部緑橋教会を会場として開催されました。講師は藤永徹也さん。「炭鉱を記録する会」会員であり、宇部市常盤校区の地域づくりグループ「わくわく常盤」の会長をされています。

藤永さんは、昨年10月28日(日)に宇部市「石炭記念会」で開催された「炭鉱の語り部講座②」の講師をされました(タイトルは、「宇部炭田を知ろう」)。それを「刻む会」運営委員会のメンバーが受講し、長生炭鉱のピーヤについての「刻む会」で共有されていない事柄への言及を聞いたことがきっかけで、今回お招きしたのでした。20名弱の参加がありました。

藤永さんは半世紀前から！炭鉱の記録を調べて来られた方で、ビデオやパワーポイント(小学校に招かれた際に用いられるそうです)を駆使しつつ、江戸時代から現代に至るまで、多岐に亘って詳述してくださいました。

長生炭鉱の二本のピーヤに関する藤永さんのお話は、概ね以下の通りでした。「沖のピーヤは、1914(大正3)年、初代長生炭鉱創業時に建てられたもので、採炭に使われていた。初代長生炭鉱は二年後に終業。1929(昭和4)年、長生炭鉱業所が設立され、翌年本格操業開始。採炭のための斜坑がつけられ、沖のピーヤは排水専用となった。岸の側のピーヤは1933(昭和8)年に、最初から排気用に建てられたもの(坑道が沖に延びると通気が重要なので)。ピーヤ工法は、通常人工島を造成して行うが、長生炭鉱は水深が浅いので、砂利を敷きつめて平坦にしてから、現場で工事をした」。

「沖の方のピーヤは元来採炭用であった」ことは、これまで「刻む会」で共有されていなかったことでした。

藤永さんのお話の後の質疑応答・意見交換は、上記二本のピーヤそれぞれの用途の他、「刻む会」の課題であるピーヤの保存、遺骨収集等々…時間を超過してなされ、盛会でした。



### 会計報告(2018/11/01~2019/02/28)

円

#### 【追悼碑特別会計】

収入			支出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
繰越金	1,605,224				
繰入金	0		繰越金	1,605,224	
合計	1,605,224		合計	1,605,224	

#### 【遺骨収集等特別会計】

収入			支出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
繰越金	1,982,985		国政府との交渉	84,040	5名参加
繰入金	0		繰越金	1,898,945	
合計	1,982,985		合計	1,982,985	





会計報告（2018/11/01～2019/02/28）

【一般会計】

（円）

	科目	年度予算	期間実績	実績累計	率	備考
歳入						
1	会費	520,000	82,000	425,000	81.7%	
2	寄付金	1,000,000	480,800	916,820	91.7%	※
3	物販	40,000	16,600	26,200	65.5%	
	証言・資料集	30,000	16,600	20,200	67.3%	
	その他	10,000	0	6,000	60.0%	
4	雑収入	5,000	0	3,740	74.8%	
5	前期繰越金	0	0	0		
6	特別会計より繰入	0	0	0		
	合計	1,565,000	579,400	1,371,760	87.7%	
歳出						
1	事務費	60,000	10,354	58,856	98.1%	
2	広報費	220,000	57,677	154,322	70.1%	たより印刷送料
3	会議費	30,000	0	0	0.0%	
4	追悼碑管理費	10,000	1,547	4,985	49.9%	電気代、パンフ設置
5	活動費	980,000	92,460	326,876	33.4%	
	学習会等	180,000	12,035	91,006	50.6%	マダン、ピーヤ学習会他
	追悼集会	600,000	0	0	0.0%	
	その他活動	200,000	80,425	235,870	117.9%	諸派遣費
6	他団体会費等	45,000	3,000	13,000	28.9%	
7	雑支出	35,000	6,866	16,666	47.6%	
	手数料	25,000	6,866	16,666	66.7%	
	その他	10,000	0	0	0.0%	
8	予備費	50,000				
9	特別会計へ繰出	135,000	0	0	0.0%	
	小計	1,430,000	171,904	574,705	40.2%	
10	繰越金	0	407,496	797,055		
	合計	1,565,000	579,400	1,371,760	87.7%	

※ 寄付者（敬称略）

赤間 至 麻野 他郎 有久 園子 安溪 遊地 呉 世 憲 金澤 正善 鎌野 真  
 姜 泰 玉 杵 泷 智子 工藤 昌三 熊野 讓 小暮 房子 小林 知子 齊藤美代子  
 沢村 和世 司城潤一郎 鈴木 忠実 関谷 陽子 空野 佳弘 谷本 育紀 崔 玉 任  
 中條 克俊 利元 克巳 長澤連三郎 中村 満吉 西森 邦子 林 尚志 藤本エイ子  
 松富 昭子 宮田 幸好 本吉 真希 山本 利明

在日大韓基督教会小倉教会 在日大韓基督教会西南地方会社会部

在日本大韓民国民団 山口県宇部支部 在日本大韓民国民団 山口県地方本部

在日本朝鮮人総連合会 宇部小野田支部 在日本朝鮮人総連合会山口県本部

日本基督教団小郡教会 無窮花堂友好親善の会 東北アジア歴史財団 （その他匿名 12 件）

なお、【追悼碑特別会計】及び【遺骨収集等特別会計】については前ページをご覧ください。

以上感謝をもってご報告いたします。引き続きのご支援をお願い申し上げます。

# 運営委員会報告

(2018年12月19日～2019年3月20日)

事務局長 小畑太作

## 1. 委員会会議開催

- 第10回 12月21日(金)欠席2名。
- 第11回 1月17日(木)欠席3名。
- 第12回 2月7日(木)欠席2名。
- 第13回 3月15日(金)欠席3名。

## 2. 会員動静

正会員109名(総会比+9名)  
賛助会員241名(総会比+15名)  
寄付者92名(総会比+3名)

## 3. 77周年追悼集会

準備協議と実施と反省評価。

## 4. 他団体との連携

- ①5月B-Y-P交流会参加の中学生を対象にした「長生マダン」開催12/15(土)「西法寺」中学絵師5名参加。
- ②強制動員真相明ネットワーク事務局会議1/12(土)「神戸学生青年センター」委員派遣。/全国研究会 4/6(土)～7(日)「群馬」委員派遣検討。
- ③在日本朝鮮山口県商工会新年の集い 1/20(日)「山口グランドホテル」委員派遣。
- ④第10回手作り交流&使用済み切手まつり 2/16(土)～17(日)「防府アスプラント」協力。
- ⑤「広島・三菱の強制連行の実態を暴く」講演会 12/24(月)「広島JMS アステールプラザ」委員派遣。
- ⑥学習会「韓国大法院判決から考える」1/14(月)委員派遣。
- ⑦第8回B-Y-P 韓国富川の青少年とのいきいき交流 5/3(金)～6(月)協力検討。

## 5. 追悼ひろば

- ①パンフレット制作・英語版・ハングル語版作成。
- ②パンフレット設置。
- ③パンフレット改訂版を検討。
- ④壁面空きスペースへの写真資料展示検討。
- ⑤資料の追加展示検討。
- ⑥指導線の修繕検討。
- ⑦ブロック塀の安全確認検討。
- ⑧名板の日焼け改善検討。

## 6. 証言・関係資料収集発行

- ①証言聴取を検討。
- ②映像と紙資料のデジタル化の作業継続。
- ③韓国出版『角が出た海』の日本語版出版作業継続。
- ④紙芝居「アボジは海の底」のオリジナル映像化作業継続。
- ⑤その他証言・資料の検討と調査。

## 7. 遺骨等収集

- ①データベース拡充について検討。
- ②DNA検体採取検討と実施(2名) 2/17(日)。
- ③坑口調査検討。

## 8. 学習会等

- ①個人FW受入対応 1/31(木)。
- ②ピーヤに関する学習会開催 1/19(土)。
- ③韓国仏教曹溪宗FW受入対応 3/10(日)。
- ④大韓仏教観音宗慰霊祭受入検討 4/13(土)。

## 9. 行政交渉

- ①国政府との交渉検討。「国の過去調査」に関する調査継続。
- ②韓国政府との交渉検討。大統領への書簡発送2/28(木)付。
- ③宇部市役所との第42回協議会検討と実施。
- ④宇部市議会、山口県議会議員との懇談検討。

## 10. 山口朝鮮初中級学校への助成金停止問題

- ①朝鮮学校を支援する山口県ネットワークの加盟団体として、県知事(原則毎月第2水曜日)と下関市長(原則毎月第4火曜日)への要請行動に参加。
- ②ネットワークのHPと会計を引き続き担当。
- ③宇部市人権施策推進審議会と宇部市長宛質問と要請書提出12/26(水)付。
- 回答不十分につき質問と要請書を再提出3/15(金)付・3/20(水)付。

## 11. その他

- ①ホームページの移設と拡充検討と実施。
- ②会報誌『刻む会たより』発行と準備。
- ③FWの拡充を検討。
- ④プロジェクト購入について検討。
- ⑤朗読劇再演検討。
- ⑥2019年度総会準備。

### 長生炭鉱水没事故 77 周年追悼集会会計報告

支 出			
会場費	75,400	現地交通費	63,400
事務費	5,000	懇親会	92,000
遺族宿泊費	84,900	遺族接待費	55,431
遺族交通費補助	280,000	供物	1,880
講師謝礼・交通費	80,000	雑費	2,592
一日目昼食代	76,150	広報費	7,480
二日目昼食代	26,600		
二日目夕食代	9,356	合 計	860,189

書籍のご案内

真相究明ネットワーク発刊  
「明治日本の産業革命遺産」  
と強制労働  
500円



事務局で取り扱っている書籍のご案内です。ご希望の方は、事務局までご連絡ください！



証言資料集 全3冊  
絶賛！好評発売中！  
頒布価格 1冊 300円  
2冊セットで500円  
3冊セットで700円



韓国・真相糾明委員会発刊書籍

←『日本の長生炭鉱水没事故に関する報告書』  
ご希望の方はカンパ1000円でお送りします。

『委員会活動結果報告書』（日本語版）→  
ご希望の方は、カンパ300円(送料込)でお送り  
します。



今後の行事のご案内

2019年4月13日(土) 場所：追悼ひろば  
13時～15時30分 韓国・観音宗による追悼集会  
(遺族11名参列予定)

2019年5月16日(土) 場所：宇部緑橋教会礼拝堂  
14時～15時30分 第6回 定期総会  
15時40分～ ビデオ「忘れられた名前」上映  
&トーク

17時～ 交流会 場所：近くの居酒屋にて  
※会員には5月中旬頃、別途案内を送付します。

たより同封物

・振替用紙

活動日誌(前回たより以降)

※太字：詳細は記事にて紹介

- 12/24(月) 「広島・三菱の強制連行の実態を暴く」講演会「広島JMSアステールプラザ」
- 12/26(水) 宇部市人権施策推進審議会と宇部市長宛質問と要望書提出
- 1/12(土) 強制動員真相究明ネットワーク事務局会議「神戸学生青年センター」
- 1/14(月) 学習会「韓国大法院判決から考える」〔広島国際会議場〕
- 1/17(木) 第11回運営委員会
- 1/19(土) ピーヤに関する学習会「緑橋教会」
- 1/20(日) 在日本朝鮮山口県商工会新年の集い「山口グランドホテル」
- 1/31(木) 個人FW受入対応
- 2/7(木) 第12回運営委員会
- 2/16(土) 77周年追悼集会
- 第10回手作り交流&使用済み切手まつり
- パネル展示「防府アスピラート」
- 2/17(日) 韓国遺族会と懇談会
- DNA検体採取検討と実施(2名)
- 2/20(水) 第42回長生炭鉱水没事故問題解決協議会「宇部市青少年会館」
- 2/28(木) 大統領への書簡発送
- 3/10(日) 韓国仏教曹溪宗FW受入対応
- 3/15(金) 第13回運営委員会
- 宇部市人権施策推進審議会と宇部市長宛質問と要望書再提出